



平成 27年 7月 24日

平成27年度 伊豆市議会第2委員会 行政視察報告書

第2委員会 青木 靖

日 程 平成27年 7月15日(水)、7月16日(木)、7月17日(金)

場 所 平成27年7月15日 福井県 勝山市  
平成27年7月15日 石川県 金沢市、 富山県 射水市  
平成27年7月15日 富山県 富山市

- 目 的
- ① 子育て支援日本一の取り組みについて
  - ② 北陸新幹線開業に伴う文化財を活かした取り組みについて
  - ③ 中学校の統合について
  - ④ 富山型デイサービスについて

視察報告

1. 勝山市の子育て支援について

福井県 勝山市では、人口減少・少子化(晩婚化)・高齢化の傾向が、長引く不況等によって出産・子育てへの不安につながり、さらなる少子化の加速が懸念されたため、効果的な育児助成等により出産率の向上と育児不安の解消を目指してきた。

主な施策

- ① 妊婦健診の無料化  
基本的な妊婦健診は 14回まで無料
- ② にこにこ妊婦奨励金  
勝山総合病院で妊婦健診を1回目から受信して、連携先の県内の病院で出産した場合、10万円を支給
- ③ 乳児健診の無料化  
1か月児健診、4か月児健診、9～10か月児健診を無料で受けられる
- ④ 各種育児相談等の実施  
1歳6か月児健診・3歳児健診・5歳児健診に加え、医師・保健師・管理栄養士によって、発育状況確認、子育て相談、育児相談、栄養相談、発達相談、各種教室(離乳・ことば等)開催などで、乳幼児期の子育てを支援
- ⑤ 保育料の軽減  
第3子以降は就学前の保育料が無料  
3人同時入園の場合は2人目は半額 2人同時入園でも2人目は半額

- ⑥ 保育園の一時預かり、休日保育、延長保育を充実  
公立2園、私立9園で待機児童なし
- ⑦ 病児・病後児保育  
1園で実施 利用料は日額2,000円
- ⑧ 小学校 放課後保育の実施 (放課後児童クラブ)  
小学校1年生から6年生までの利用を希望する全ての児童が無料で利用可能
- ⑨ 障害児放課後支援  
障害児が放課後や長期休暇中に1校内の通所事業所を無料で利用できる
- ⑩ すくすく育成奨励金  
第3子 30万円、第4子 40万円、第5子以降 50万円を支給

その他、母親の支援対策として、専業主婦が求職活動をする期間の支援事業や子育て支援センターの出前保育等での市民ニーズの吸い上げなどが特徴的。

今後の課題として、医師の確保と出産できる医療機関の整備、結婚したくなる環境づくり、第1子・第2子に対する支援、安心して出産・子育てができる地域づくり等があげられていた。

勝山市における出生数の推移は、一方的な減少傾向ではなく、150人台を維持しており、第3子以降の出生数も、ここ十年来安定していると言える。

勝山市は、3世代同居が多く、家族が近隣で生活している場合が多い。元々共稼ぎ率が高く、女性が働くのが当たり前の地域ならではの子育てに対する考え方が基本にあるように思われた。

## 2. 金沢市の北陸新幹線開業に伴う文化財を活かした取組み

金沢市では、新幹線開業プロモーションにおいて、金沢での受入環境の整備にも取り組んでいる。都市間交流・連携による効果を狙った富山県西部との広域観光の推進、国際観光客宣伝での三重県・愛知県・岐阜県との連携も行われているが、おもてなし環境の整備と同時に本来の金沢の伝統的要素を活かす取組みが、積極的に行われていた。

藩政期の古地図を使った金沢散策は、重要伝統的建築物群保存地区のひがし茶屋街(美しい出格子がある古い街並み)や加賀藩士の中下級の武士の屋敷の跡が残る長町武家屋敷跡界隈などを現在の実際の道路等と細部が異なっている古地図を見ながら回るもので、人気を博しているという。

富裕層向けプレミアムツアーは、加賀友禅作家の工房を訪ねる旅の企画で、今に息づく武家文化を味わう上質な旅を演出し、新たな観光素材として活かしている。

### 3. 富山県射水市の中学校統合について

射水市の二つの中学校を統合し新湊中学校とする過程について説明を受け、新装なった校舎の内部を見学した。

比較的狭い範囲での二つの学校の統合であった。築35年となる校舎の老朽化がひとつのきっかけであり、生徒数の減少とそれに伴う学級数の減、専門教科教員の確保の可否、部活動の存続等の問題が課題となり、統合が進められた。

統合の目的は、①子供たちにとって望ましい教育環境の確保(切磋琢磨できる教育環境) ②学級数の維持 ③専門教科の教員を多く配置 ④部活動数の確保 とされている。

統合にあたっては、統合協議会を設置している。学識経験者、自治会関係者、PTA関係者、関係小中学校長から編成され、計7回開催された。

また、「協議会だより」を5回発行し、市の広報配布に合わせて自治会に配布した。

協議会は、18名からなる組織で、各部門での協議検討を重ね、取りまとめは教育委員会が行う体制を取っていた。

新校舎の建築に要した費用は、28億5千2百万円で、財源内訳は 国補助8億4千9百万円、市債(合併特例債)18億2千3百万円、基金8千6百万円、一般財源9千4百万円 となっている。保健室と校長室以外は廊下側もガラス張りになっていて、見える化されている。生徒たちは元気にあいさつができていて、好感が持てた。

統合後のPTAの評価としては、教育環境がよくなったこと、生徒の一体感が育ち、子供たちが自主的に新しい校風を作り上げようとして活動している様子を評価してる。

市内4校の小学校で単学級があり、今後の人口減少に伴い、小学校の統合も考えていく必要があると考えているようだった。

### 4. 富山型デイサービスについて

富山型福祉サービスの特徴は、小規模と共生。

小規模とは、街中の民家を改修して造った施設で、地域と密着した「ひとつの家」で、共生とは、高齢者・身体障害者・知的障害者・心身障害者・乳幼児を同じ施設で同時に処遇すること、という考え方であった。

富山型福祉サービスは、富山赤十字病院を退職した3人の看護師が開所した「デイケアハウスこのゆびと一まれ」から始まり、後に富山型と言われるようになった。

国の制度では、それぞれ根拠となる法律が違ったため、開設当初は行政からの支援

が受けられなかった。富山市が平成8年から市単独事業の形で事業化、行政との連携が始まった。平成12年に介護保険制度がスタート、通所事業所として指定され、その後は適用制度が追加されていった経緯がある。

平成15年11月には、富山型デイサービス推進特区が認定。介護保険上の指定通所介護事業所等で知的障害者、障害児のデイサービスの利用が可能になった。

富山型デイサービスのメリットは、①子供と触れ合うことで、自分の役割を見つけ、意欲が高まることにより日常生活の改善や会話の促進という高齢者や障害者への良い効果があること ②お年寄りや障害者などの他人への思いやりや優しさを身につける成育面の児童への効果がある ③地域住民が持ちかけてくる様々な相談に応じるとともに、地域住民の福祉拠点になるという地域への効果がある こと、とされる。

デメリットとしては、高齢者と身体障害者、知的障害者、心身障害児が同時にサービスを受けることとなるので、障害特性に応じた処遇が確保されるかが問題となる。

NPO法人「ふるさとのあかり」を訪問し、代表者から話を伺った。

本事業は、理念と経験がしっかりした「人」に頼る事業である と感じた。

「赤ちゃんからお年寄りまで、障害のある人もない人も、共に楽しく集い、語らい、ふれあい、助け合い、生きがいを感じられる 心のふるさとになれますように…」との思いが、活動を支えている。

職員の待遇も考慮されていて、互助会の組織、各種研修や資格取得に積極的。障害者雇用にも配慮されている。ボランティアの受け入れは県職の研修の受け皿にもなっているし、中学生の職場体験の場にもなっている。地域に開かれた施設で、カルチャー教室として利用できる地域交流室の機能もある。施設建築に関する補助が充実している点が多様な事業を後押しする形になっている。

食事はすべて自炊。自家菜園があり、食材を畑から調達する。畑の草取りにはご近所の方の協力がある。食器はすべて瀬戸物、つまりプラスチック等の物は使わない。カチャカチャ音をたてて食卓の準備をしたり、煮炊きのおいがしてくる中で食事を待つことが利用者にとって良い影響があるのだという。

一時的な短期宿泊であるところのショートステイは、高齢者・障害者(児)を対象としている。このサービスを年中無休で、24時間営業している。経営者の福祉にかける強い思いがあればこそ出来ることだと実感させられる。

富山型デイサービスに決まりはないという。静岡県は「ふじのくに型」をつくりあげていけばいいのだし、伊豆市の実情に合った「伊豆市型」を作っていくことも可能だということ。

以上